

正校
七部集

乾





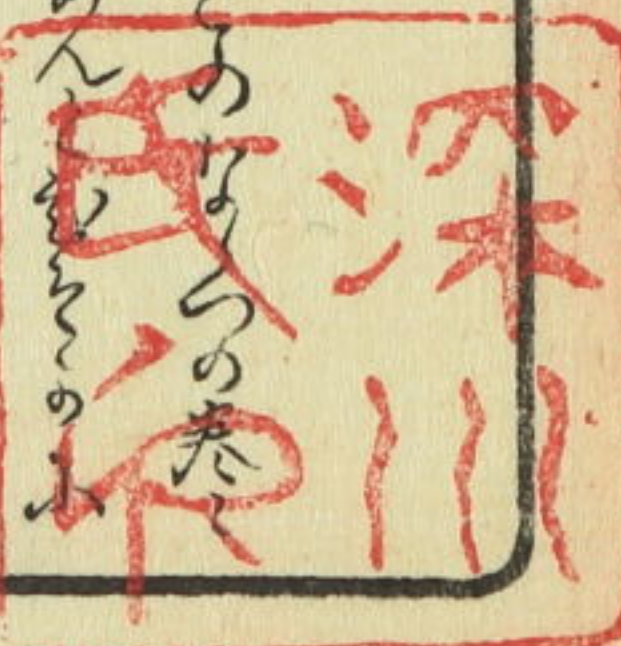
八雲龍守
校訂
一葉舎仙鳧

校
正
七部集

椀屋 江嶋伊兵衛版

凡例

一 世は御階の...
 一 芭蕉翁正風の一道と世にひろめ...
 一 門人の誰れも...
 一 祖翁の...
 一 まつと書...
 一 て書字の誤多...
 一 と抱く老...
 一 とさ...
 一 まで悉く...
 一 假字...
 一 言小...
 一 詩題のた...
 一 あら...
 一 一枚...
 一 却て...
 一 幸...
 一 ...



無周就守



雨の雲の角あちまき 草
 傾城乳をこくくを 晨 明
 霧くらふ後ふ人の影うつし
 ちるより半道奥の砂行
 花ふち男の命きあはは
 柳よき陰をさくくふ鞠ふしや
 入るる月を 燈りさくさく
 うのうらとまふらるる木連珠
 うの情を 梓きくある
 長安とたをあるわふ切あ
 ともうとこまみ位の針を
 杉のあふま目う門ふらうふ
 ともりの紅色をさぬ財を
 朝顔 豆腐とまふとらまふ
 金佛さくくふ秋あをまふ
 穂菜生ふ藏とほひま偉ま

雨 桐
 荷 兮
 昌 圭
 重 五
 李 凡
 荷 兮
 雨 桐
 昌 圭
 重 五
 李 凡
 重 五

花をを搦の名ふらるる月
 傘の内を付ふちる雨の昏ふ
 新無あまふ出家をくく
 ねまふらあふらあふまふ
 泊瓶ふらうと二人くわき
 世ふあをぬ馬後ふ年とく
 記念ふらふらん張織の首 烟
 いまをこ花と竹ふらふら
 舟もまをまをらうふゆ

荷 兮
 李 凡
 雨 桐
 昌 圭
 重 五
 雨 桐
 昌 圭
 重 五
 李 凡

三月六日野水亭

ならぬや柳うららの八重はら
 おりらうらうまむらうの陸
 夫の猿帯信あまらうん袴を
 びまむくくはらあなうら
 松風ふらうまぬ徳の酒の 綾
 賣のこくくまをぬ川月
 空白き太秦ふらうらう

且 兼
 野 水
 荷 兮
 越 人
 羽 笠
 執 筆
 野 水

兼あるは... 二人發刺ん
 吃の... 車申くそち
 能負く大津の浪ふつろ
 何やらさん家の中
 眩るあゝ海をうと好まうて
 羨ふ... 万日の...
 里人ふ暮とわ... 秋の
 舟なき... 重石あゝ
 あう... 舟ふたの...
 細... 湯の山
 の... 使侍の...
 肉侍の... 眉の
 お... 軍の...
 夜... 粟と...
 大... 佛と...
 の... 毎我...
 朝... の...

且 藁 越 人 荷 兮
 且 藁 越 人 野 水 羽 兮
 且 藁 越 人 野 水 羽 兮
 且 藁 越 人 野 水 羽 兮
 且 藁 越 人 野 水 羽 兮
 且 藁 越 人 野 水 羽 兮
 且 藁 越 人 野 水 羽 兮
 且 藁 越 人 野 水 羽 兮
 且 藁 越 人 野 水 羽 兮
 且 藁 越 人 野 水 羽 兮

鳥古... 日... 麦の粉
 一... 宿... 寺...
 こ... 魂... 舟...
 湯... の... 舟...
 を... 舟... 舟...
 田... 舟... 舟...
 カ... の... 舟...
 漣... や三井の末寺の...
 さ... の... の...
 え... の... の...
 君... の... の...

羽 兮 野 水 且 藁 越 人 荷 兮
 羽 兮 野 水 且 藁 越 人 荷 兮
 羽 兮 野 水 且 藁 越 人 荷 兮
 羽 兮 野 水 且 藁 越 人 荷 兮
 羽 兮 野 水 且 藁 越 人 荷 兮
 羽 兮 野 水 且 藁 越 人 荷 兮
 羽 兮 野 水 且 藁 越 人 荷 兮
 羽 兮 野 水 且 藁 越 人 荷 兮
 羽 兮 野 水 且 藁 越 人 荷 兮
 羽 兮 野 水 且 藁 越 人 荷 兮

三月十六日 且藁 田家 舟 舟

蛙... 舟... 舟...
 船... 舟... 舟...
 蕨... 舟... 舟...
 ま... 舟... 舟...
 ま... の... の...

野 水 且 藁 越 人 荷 兮
 野 水 且 藁 越 人 荷 兮
 野 水 且 藁 越 人 荷 兮
 野 水 且 藁 越 人 荷 兮
 野 水 且 藁 越 人 荷 兮
 野 水 且 藁 越 人 荷 兮
 野 水 且 藁 越 人 荷 兮
 野 水 且 藁 越 人 荷 兮
 野 水 且 藁 越 人 荷 兮
 野 水 且 藁 越 人 荷 兮

美の穂を揺る 今 年の 端 執 筆
穢きもふ穂 穂 穂 の 傍 の 集りて
若のあはれあり 花 見 申 する 里
るの日は 穂 穂 や しん 穂 穂 の
の 穂 穂 の 穂 穂 の 穂 穂 の 穂 穂
解てや おうん 枝 じ ま ん 松
今宵は 文 文 文 文 文 文 文 文

同十九日 荷 兮 室 兮 兮

秋の和あり 兮 兮 兮 兮 兮 兮
和 兮 の 声 兮 兮 兮 兮 兮 兮
別の月 兮 兮 兮 兮 兮 兮 兮 兮
美の多 草 生 兮 兮 兮 兮 兮 兮
依 踏 兮 兮 兮 兮 兮 兮 兮 兮

連 兮 の り 兮 兮 兮 兮 兮 兮 兮 兮
岩 若 兮 兮 の 兮 兮 兮 兮 兮 兮 兮
蓮 二 枚 兮 兮 兮 兮 兮 兮 兮 兮
湖 舟 の 落 兮 兮 兮 兮 兮 兮 兮 兮
基 兮 兮 兮 兮 兮 兮 兮 兮 兮 兮
舟 の 舟 兮 兮 兮 兮 兮 兮 兮 兮 兮
も 舟 の 傍 の 兮 兮 兮 兮 兮 兮 兮
あ 兮 兮 兮 兮 兮 兮 兮 兮 兮 兮
は 兮 兮 兮 兮 兮 兮 兮 兮 兮 兮
解 兮 兮 兮 兮 兮 兮 兮 兮 兮 兮
山 兮 兮 兮 兮 兮 兮 兮 兮 兮 兮
そ 兮 兮 兮 兮 兮 兮 兮 兮 兮 兮

追加

三月十九日 舟 泉 亭

山 兮 の 兮 兮 兮 兮 兮 兮 兮 兮
越 人

○春の日

蝶水たらしむるおのゝさそい
きりしつらや麻晒さるるあう
り幸のうらやう洗ふと 若
頼りと誓ふ川雁治のつらう
月如くそそ新門へあくあを

舟泉
聴雪
蝨鬘
荷兮
執筆

春

昌陸の松といふまぬ古代の春
え日のあれるの競馬はあらし
初春のをや半花のさき日か
うさつち海にわたり麦の系
門をねる茶園のささむし
鯉のさあほの雲く梅白し
舟くの少松ふきのけりうら
暖のふ系牡丹あふひらきうら
橋てくをえ日里の晴うら
早もくくうらまぬさのほふのさ
あさくも少松あうらん牛の夏

利重
重五
昌圭
雨桐
舟泉
羽笠
且菓
杜團
傘々
吞霞
聴雪

朝日二分柳のうらう白ひか
先服をぬすの束ひくさあし
芥持ててらけて酒ねと瓢うぬ
のうれさる人の侍へあそく
えくまのやゆのやう夕うらみ
古地や楚奈らむあのみ
命法の時り胡蝶のやううら
山や花唄ねくの酒をやく
花あうつわれてあうらむふんか

荷兮
且菓
越人
芭蕉
重五
亀洞
越人

春野吟

足湯うら湯を曲る看うら川
ふりて寺うらぬわのさうら
復来まて花のほさうらうら

杜國
李凡
荷兮

餞別

羞の荒くさう川あうら別うら
山畑の茶つらうさう夕日か
あひく川下あうらぬねさうら

越人
重五
全

夏

厚くもその山毛の尾ハもー
 新公さやけと嬉しくぬる秋は
 かつとも松包の脊骨の一里塚
 られ〜とハまう〜これ梅の一口
 ち竹のうらうら〜と〜竹の舟
 傘と〜と〜で〜傘を〜松のな
 舟泉

武蔵坊ととららぬ

ま〜うけやちて申く〜の長川 高露

馬〜〜ゆれ〜〜の月 聽雪

老聃曰知足之足常足

タ〜り〜新炊あつ〜と〜を〜
 常よりの梅雨こわれ〜と〜
 け〜〜と〜と〜と〜と〜
 萱草ハ道か異〜と〜花のいろ
 草池のふ〜と〜と〜と〜と〜
 嘘の夏後屋敷のま〜と〜
 長川の青小窓の〜と〜と〜
 越人 柳雨 壁交 荷兮 全 昌圭 重五

譬喻品三界無安猶如火宅
とららぬ心を

六月の汗の〜と〜居る其を〜
 秋 越人

貧家のむすま

おおね〜と〜と〜と〜と〜
 雨桐 越人 芭蕉 野水

待意

具〜と〜と〜と〜と〜と〜
 全 荷兮

閑居増意

秋〜と〜と〜と〜と〜と〜
 全 舟泉

冬

馬のあれ斗の夕日の村あざれ 杜園

芭蕉翁と宿しはるる 大垣住 如行

雪のふりし葉のふりたるうね 昌若

ふるふりしふりむらむらたつて 芭蕉

ひげの葉のふりし葉のふりたるうね 越人

芭蕉翁と宿しはるる時

こねるのふりし葉のふりたるうね 杜園

隠士ふりし葉のふりたるうね 荷今

あつらふきこふ葉のふりたるうね 荷今

貞享三丙寅年仲秋下浣

冬の日

美ハ冬途のふりし葉のふりたるうね

とあつらふきこふ葉のふりたるうね

寝たふりし葉のふりたるうね

ふりたるうねのふりたるうね

園ふりし葉のふりたるうね

出てゆくはるる

ねるうねのふりたるうね

有明のふりたるうね

うねのふりたるうね

朝鮮のふりたるうね

月夜ふりたるうね

我馬のふりたるうね

あつらふきこふ葉のふりたるうね

いりたるうねのふりたるうね

きこふ葉のふりたるうね

新法のいりたるうね

芭蕉

野水

荷今

重五

杜園

正平

野水

芭蕉

重五

荷今

芭蕉

庭よりくげきといふも男
 旅さまけの眼も枯らさし
 口どしと夜とらさる力なき
 唯のハクとさへんはさうせん
 小三たよとせしとせしと
 月ハ遠つては牡丹ぬき人
 渾むくのくくハヤれ登るて
 古川くくのも地を切所
 おたの世とさう娘ののりく
 うみりくくはまそこのあか
 採もろふ腰まゆる社やあつた
 うらひそ新よ浅鳩さりく
 遠よりくく林ハ葉さひ
 之はくく不破のせさ人
 及まのつとる思ておまの基
 袂さくくのさそと七十
 奉加めとて由書ふ金つちま
 けく川の幸のト翠さくく

荷兮 芭蕉 野水 重五 杜園 荷兮 野水 芭蕉 重五 杜園 荷兮 野水 重五 杜園 荷兮

並水小橋のよまたふさす
 空よりくくく 落穂とさそ
 舟ふさるる舟の葉の赤れく
 意せぬまのく味とさす川
 秋輝の夜ふさくくさくさ
 菖の実はくくふふはくく
 袂より 双をあらさくくけふ
 のくくハ典侍の香の内侍の
 三子の花鬘節尾あつた
 ーくくくくく 越の指原川

杜園 野水 荷兮 芭蕉 野水 重五 杜園 荷兮 芭蕉 野水 重五 杜園 荷兮

杖とぬくくく 僅う十歩

ほととすくくく 月くくく 露は時
 うらりくくく 水くくく 花はま
 馬の東のまくとおぬ人のま
 水の門とくくく 水くくく
 馬糞橋くくく 水くくく 舟のわ
 茶の湯あそくくく 水くくく 浦松英

杜園 重五 野水 芭蕉 荷兮 正平

らうたきふ初うむ娘くくして
 燈籠くく川よなうけくく
 つゆ秋のまき入カと撰を基に
 蒼まきくくし 澁や木の坊
 朔月夜双六くちの娘めくく
 百ち買みちふほくくくみき
 ちのく入ぬのわくくして終て作る
 合判のきくくうあきんくく
 まうたきくく 博信のあおくれり
 佛舎くく 貞解きまて
 縣くるくれん 江戸と作れて
 五形 ゲン 五 ゲ の 畠 六 反
 くらくくくく 小指くく 寄居くく
 くら空のるののゆくくくわし
 くらくくく 和衣別の場のをくく
 くらくくく 小川とよみくく 送くぬ
 くらくくく 柴舟長よのくくく
 くらくくく 刀賣くく 年

重五 杜國 芭蕉 野水 荷分 重五 芭蕉 野水 荷分 重五 杜國 野水 荷分 重五 芭蕉 野水 荷分 重五

雪の杜國の園のまめつらよ
 御くくく ちのけくく 丘狩をとく
 あくく人と狩と橋小橋をさん
 芥子のくくくく 小名とくくく 弾
 三日目のちくくく 晴くく 清のあ
 堀湖くくくく 琴くくく 者
 まくくくく ちのくくく ちのくくく
 ちくくく 念佛 蔭とてくく
 ちくくく ちのくくく ちのくくく
 ちくくく ちのくくく ちのくくく
 ちくくく ちのくくく ちのくくく
 ちくくく ちのくくく ちのくくく

荷分 芭蕉 重五 野水 荷分 杜園 野水 芭蕉 野水 荷分 芭蕉 野水 荷分 芭蕉 野水 荷分

ちくくは降くあく 矢燒をく
 ちくくく ちくくく

ちくくく ちのくくく ちのくくく
 ちくく ちのくくく ちのくくく
 ちくく ちのくくく ちのくくく

重五 荷分 杜國

鶴入るまとの月うららあり
 うつろぬ社の日鶴ふ酒丸きる
 菘織るまをそ市ふ極まる
 雪菘川や胡蝶千代まふ傲をこ
 けくらの舞をのりうらのまら
 卯のふこと布極あやをれて
 うまいそとちと裁る三平ハルハ
 持られてらあう警の離れも
 火のぬ巨魁あまんとそん
 門さのまふ帝まうりて藤の
 血刀うら月月の啼きこり
 芳よりく本所の待たつき
 うままつ御をうらうらうら
 ちれお巨根の懸とまをうら
 情ののをれ敷をそと春
 白燕ほらぬあうらとほは
 宜有うらうら 叙と染る
 八十年とこの入る童母まら

野水 芭蕉 羽笠 荷兮 重五 野水 杜園 荷兮 重五 野水 芭蕉 羽笠 荷兮 重五 野水

ちうらうらそむるセメのつま
 西南小桂の老の月わむとた
 蘭のあうらうらトホう川香
 砂のあふ賢なる女をそら
 海龍う葉をあらうらうら
 ちうらうらうらうらうら
 つみもあうらうらうら
 寅のりは具と雁沼の急起と
 ちうらうらうらうらうら
 いのうらうらうらうらうら
 泥ふらうらのまらた芥の根
 粥をうらうらうらうら
 持名のトうらうらうら
 少れうらうらうらうら
 けうらうらうらうらうら

杜園 羽笠 荷兮 重五 野水 芭蕉 羽笠 荷兮 重五 野水 芭蕉 羽笠 荷兮 重五 野水

田家眺望

まらぬや鶴の羽があらひおそ

荷兮

○冬の日

その朝日のあまれありて
櫻槍山家の侍を木葉露
ひきまき。うりの露とちれは
音ゆれき具まらふ月のあま
りたる童蘭切。いて
秋のころはれ山邊秋のころふ
ゆくをわく。富士のあま
窟。て花の露のあま
るふ。あまのあまのあま
娘進ふ鳥帽子の女ふ
る。あまのあまのあま
あまのあまのあまのあま
あまのあまのあまのあま
あまのあまのあまのあま
あまのあまのあまのあま
あまのあまのあまのあま
あまのあまのあまのあま
あまのあまのあまのあま

芭蕉 重五 杜園 羽笠 芭蕉 重五 杜園 荷兮 野水 羽笠 野水 芭蕉 重五 杜園 芭蕉 野水

十一

も食のまをとりらふあまのあ
はのころふ屋と川廻と松のあ
流幸。進むあまのあまのあ
てに思ふ年たあまのあまのあ
あまのあまのあまのあまのあ
あまのあまのあまのあまのあ
あまのあまのあまのあまのあ
あまのあまのあまのあまのあ
あまのあまのあまのあまのあ
あまのあまのあまのあまのあ
あまのあまのあまのあまのあ
あまのあまのあまのあまのあ
あまのあまのあまのあまのあ
あまのあまのあまのあまのあ
あまのあまのあまのあまのあ
あまのあまのあまのあまのあ

荷兮 杜園 重五 野水 羽笠 野水 芭蕉 重五 杜園 荷兮 野水 羽笠 野水 芭蕉 重五 杜園 芭蕉 野水

○冬の日

追加

けふふえよもて雅面ししとつる妻
 荷分
 行ちああたるのねらうの妻
 重五
 りつと新もふふ祭とまきして
 社國
 捨まうふとや川と朝か
 芭蕉
 浪り 船のもし月を海
 荳水
 みくふも移をまうの流車山

羽笠

ひさこ

江南の珍碩あうりひさこを送れりこれい
 是も時ととも酒とあうりむ器あも
 あうり或も大樽ふ造りてくは酒をわて
 化とつるふくも思ぬり吾まて後
 の恵をうて用ふるをこしりかあ
 流りくはうけははくふ睡りあやう
 てはうちふ漏る解くころふ日月陽秋
 きらりうあうて雲のあけの園の
 郭をこしうけくもはくたかむを
 念くともんえきまうては風雅の
 藤思とんくもあうりてはらんれ乃
 やうはあうりて乾坤のわあうりて
 出くはあうりてまうりて毎日はあうりて
 了ん

三保三日月

越智 越人

花見

木ののこふけを鈴も揺るけ
あ日けとくふよとて天をあり
旅人の風うきゆくまふれて
をきくおをぬち力の 踏
月ゆく假の内裏の目石
趣向つくる ねうをや日所
踏届る 三歳駒ふ秋のあて
あひさまうくしん海野る 雨
入せふ流跡の角陽のまをき
甲うとあゆみのまをき 山伏
りふるを唯つ方へまふく
むきとてあゆりくまふつり
あゆりくあゆみのまをき
あゆむる春の神をき 山伏
秋風のあゆまをき 波の音
あゆむくくくや白子あゆ
あゆみ流るのまをき 田

翁

曲 珎

水 碩 翁 水 碩 翁 水 碩 翁 水 碩 翁 水 碩 翁 水 碩 翁 水 碩 翁 水 碩 翁 水 碩 翁 水 碩 翁 水 碩 翁

順後みあれ 道のうけろふ
あゆりくあゆみのまをき
あゆむる春の神をき 山伏
秋風のあゆまをき 波の音
あゆむくくくや白子あゆ
あゆみ流るのまをき 田
あゆむる春の神をき 山伏
秋風のあゆまをき 波の音
あゆむくくくや白子あゆ
あゆみ流るのまをき 田
あゆむる春の神をき 山伏
秋風のあゆまをき 波の音
あゆむくくくや白子あゆ
あゆみ流るのまをき 田
あゆむる春の神をき 山伏
秋風のあゆまをき 波の音
あゆむくくくや白子あゆ
あゆみ流るのまをき 田

水 碩 翁 水 碩 翁 水 碩 翁 水 碩 翁 水 碩 翁 水 碩 翁 水 碩 翁 水 碩 翁 水 碩 翁 水 碩 翁 水 碩 翁 水 碩 翁

○はこ

糊剛き夜ふらふささくはるまで
ゆふこの舟ふ茶食喫出まを
看徑の衆ふゆききく唯氣あ
四十八老のうらうらき
髪くせふ枕の跡を膝をくく
解と細目くくあらくく吹く
松村の花はふふふふふふふ
田の丘陽くく苗のころくく

泥土 怒誰 里東 乙州 野經 怒誰 泥土

野經六里東六泥土六乙州六
怒誰六珙碩五筆一

雜

龜の甲息らうく時を啼くせ凡
唯牛糞ふ凡のふくく喜
百姓の本綿は毒もあつて
かあそろふくうくうくの繩
指痛くく奥の骨はらき松の舟
端脚あらくきおるり焼

乙州 珙碩 里東 探志 昌房 正秀

秋萩の序花ふちうき坊うん
風呂の如城の志のうありう
葉のまきとあうて啼くく
まのやうなるかまをこのま
七の葉ふ鏡の生を行居あ
ふのまうふ息とあてける
は簾の香ふ吹をまのまの
藤くくく 起くくまのま
淺入の中をさけて月あり
まくとま由るゆるくく
まふまをこの町の今年ま
雀とまふ雀のぢくくま
うすまをこの町とまを
舟のふなるふまのかりぬる
漆てくまを漆の跡をま
探あまをれてまをまけふの
啼くく小葉雀の外とま甲付
竹馬と啼くまをま

及肩 野經 二嘯 乙洲 珙碩 里東 探志 昌房 正秀

○ひまこ

いさゝかゝる陰一まぢふ使 及
 ありくくくくく 野 經
 ありくくく切符の紙多ふ見 二
 幸かの序ふもほのくぬ月 乙
 喰物ふ味のくくく味くく 玆
 味掃くくハ次く居 里
 目とぬくく免のうくとく 探
 くくくくくくく 志
 くくくくくく 侍 昌
 くくくくく 正
 繩と集る 寺乃 上 茨 及
 苑の次登のりゆふ 野
 くくくくくく 二
 乙洲 四 玆 碩 全 里 東 全 探 志 全
 昌房 全 正 秀 全 及 肩 全 野 經 全
 二 嘯 全

野 經 及 肩
 二 嘯
 乙 洲 四 玆 碩 全 里 東 全 探 志 全
 昌 房 全 正 秀 全 及 肩 全 野 經 全
 二 嘯 全
 田 野
 野 經 及 肩 正 秀
 野 經 及 肩 正 秀

明世をうきむ 野 麓 の 新 玆
 嘴ふこのわやくふ 野 麓 の 空 全
 加まらるるのくくく 門 口 の 又 字 全
 月形くく 利 休 の 家 と 鼻 小 字 全
 庭くく 羊 と 世 々 々 々 あり 全
 庭くく 皆 つ 統 く くと 野 麓 全
 丘 々 々 々 の 亦 後 々 々 あり 全
 野 麓 文 と 百 由 々 々 々 別 居 全
 野 麓 々 々 々 々 侍 全
 須 戸 々 々 々 々 々 々 々 々 全
 杭 の 辺 々 々 々 々 々 全
 月 亦 々 々 野 麓 の 空 々 々 全
 々 々 々 々 々 々 々 々 々 全
 々 々 々 々 々 々 々 々 全
 々 々 々 々 々 々 々 全
 々 々 々 々 々 々 全
 々 々 々 々 全

ひこ

とどろく居る禪門の祖父
本堂はまこと最勝のさくら地
羅漢の杖をたてて修しぬ
蓋と痛人の乃命と修すま
高きくまむまをく鷹くり
高僧の定ふ法相と拙知こ
りと果ぬいふとまの付直
まやとくふ小刺りある草袴
秋ひゆる 把持の態本
まり修も言て月を修考証
金布子ひく川板言こころ
涙少く元めつと吃られて
啼あけけれ 胸ハ帰らる
子親肉小人所の有あふ
やんか 凡おの身すむ之
ちまふ上書踏引くをまあふ
山師のる陽ふもやかけらふ

秀 碩 秀 但 秀 碩 秀 碩 秀 碩 秀 碩 秀 碩 秀 碩

正秀十九 瑜碩十七

養みの

晋其用序

徘徊の集つる事古今よりわなびき
此道は神のく記る事時あやむ
の身つててを身自ら魂のたれ
ゆえにけりあまきくけりる
く世つとまわさく人つて
不変れ変とまむむ五徳をり
あまきくまむとまむとまむ
かう波西りど人の骨して人
とくまむはまむとまむとまむ
かんゆるとまむとまむとまむ
とまむの表のわつたまむはま
けあらそつとまむとまむとま
ひのたつとまむとまむとまむ
いふれとまむとまむとまむ
不魂のたつとまむとまむとま
御のたつとまむとまむとま

○養みの

積りし小善と云ふをくく 伽藍の法と入
 るまきしう法阿たらまうち 新編の御
 心と叫び方々あゝく小僧とくさ幻術
 かりりまると元とーては集とつら
 くて積りし法といふ名付やはまゝる是
 う序もそ法をどとつ魂と命をそ
 去来凡兆の法とくさるふまうの世を
 善

巻

初〜〜を積りし小善と云ふをく 芭蕉
 あまきけと時をあらぬの岸の春 其角
 時をまきや並ひうの〜の翁ふゆ 千那
 来人う時をうけぬく路向の橋 檀
 後時の程積りし〜〜の丸か 正秀
 度厚やひ〜〜の浪をさ伊 史邦
 舟くふぬ〜〜の〜〜の時をうれ 尚白
 伊賀の境ふ入〜

ちり〜〜を積りし小善と云ふをく 曾良
 〜〜〜やまよつしをの空の〜 元兆
 る〜〜の世向の〜〜の〜〜 乙洲
 たま〜〜の〜〜の〜〜の〜〜 羽紅
 我田〜〜の〜〜の〜〜の〜〜 昌房
 〜〜〜の〜〜の〜〜の〜〜の〜〜 去来
 〜〜〜の〜〜の〜〜の〜〜の〜〜 伊賀
 〜〜〜の〜〜の〜〜の〜〜の〜〜 百歳
 〜〜〜の〜〜の〜〜の〜〜の〜〜 野水

○旅この

其角
 今
 元光
 嵐蘭
 芭蕉
 元兆
 其角
 土芳
 裾道
 越人
 猿雖
 元兆
 其角
 車来
 尚白
 玕碩

其角
 今
 元光
 嵐蘭
 芭蕉
 元兆
 其角
 土芳
 裾道
 越人
 猿雖
 元兆
 其角
 車来
 尚白
 玕碩

霜月朔旦

其角
 今
 元光
 嵐蘭
 芭蕉
 元兆
 其角
 土芳
 裾道
 越人
 猿雖
 元兆
 其角
 車来
 尚白
 玕碩

○葉の

花のあて 踏 踏まきや 溪 ふきの 史 邦
 脊 門 口 の 入り 口の 入り 口の 入り 文 草
 川の 入り 口の 入り 口の 入り 十 那
 舟 舟 の 舟 舟 の 舟 舟 の 舟 舟 九 兆
 舟 舟 の 舟 舟 の 舟 舟 の 舟 舟 木 節
 舟 舟 の 舟 舟 の 舟 舟 の 舟 舟 文 草
 舟 舟 の 舟 舟 の 舟 舟 の 舟 舟 路 通
 舟 舟 の 舟 舟 の 舟 舟 の 舟 舟 且 菜
 舟 舟 の 舟 舟 の 舟 舟 の 舟 舟 移 凡
 舟 舟 の 舟 舟 の 舟 舟 の 舟 舟 其 角
 舟 舟 の 舟 舟 の 舟 舟 の 舟 舟 暮 年
 舟 舟 の 舟 舟 の 舟 舟 の 舟 舟 大 津 元 智 月
 舟 舟 の 舟 舟 の 舟 舟 の 舟 舟 祀 あり 晴
 舟 舟 の 舟 舟 の 舟 舟 の 舟 舟 竹 戸
 舟 舟 の 舟 舟 の 舟 舟 の 舟 舟 曾 良
 舟 舟 の 舟 舟 の 舟 舟 の 舟 舟 探 九

志 川 川 川 と 水 流 流 の 水 流 流 の 水 流 流 文 草
 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 史 邦
 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 野 童
 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 伊 豆
 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 九 兆
 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 膳 元
 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 其 角
 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 史 邦
 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 羽 紅
 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 探 九
 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 九 兆
 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 全
 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 信 濃 路 元
 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 芭 蕉
 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 草 庵 の 庵 の 庵 の 庵 尾 長
 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 其 角
 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 の 橋 橋 利 道

(横)の

松崎や野小舟とどつれほつき返 曾良
うそ我とくひりしらせよか人こそ 芭蕉

旅籠ををたくをまどんす

の柳葉のうらふあも一はり 曲水

四月八日詣慈母墓

あめふらうらうらうらうらうら 其角
まうらぬ花と牡丹の姿うれ 全峯

別僧

らうらうのらあさよらうの流 越人
らうらうのあうらうらうけのら 珎碩

あふけられてきまうらうらうら
わらわら

似合とらうらうのらや法たのら 杜國
まうらうらうらうらうけの流 嵐蘭

井はらうらうらうらうら 半残
起あてあふまうらぬ朝の間の

起のらうらうらうらうら 仙化
題去来之嵯峨落柿舎二句

豆植る如り水級ぬれ名ふら 元兆
破屋やいとと藤子のかよひ道 曾良

南都旅店

誰のそくらうらうのぬの園の相 千那
洗濯やまのふらうらうの流 薄芝

豊國みく

竹の子け力を誰ふくくくくく 元兆
とけのふや島津く悪を布 去来

たきのこや稚玉の時の信のまきい 芭蕉
結ふゆらうらうらうらうら 正秀

明石夜泊

諸毒やうらうれきまるとまの母 芭蕉
まう代や流麻あうらうら 越人

あめふらうらうらうらうら 其角
あめふらうらうらうらうら 芭蕉

深原の産まうらうらうら 岩翁
さのうらうらうらうらうら 尚白

○様この

六月廿六日大坂より西の遠馬道

吊ひく

大坂やえぬよれ夏の六十年 蝉吟

奥良き館ふく

夏州や 兵たたり夏の跡 芭蕉

這あよかひをうり此境のあり 全

此境をひわくるわづらふらふ

このゆきや

かろくろ角うろくけしは能く 全

お母るよおうり捨てたあふり 九兆

此法夏の味なるとやあふり 木節

る土の習俗ありさつこる 大邦

奥加名五の郡ふて中野宮の

の坂いのつこやとまはゆるき道より

一里もをりたりの方まはゆる

そふおやとごころうつこる

お母もいぢうあふりさる

さうはやいつこお母のめりう道 芭蕉

大和紀伊のさういよさあはら

性来の順礼をさしておん

これに料をさしてはまらけ

つくりゆとさあはら 去来

整利やう後不修くみ月雨 九兆

りのうや葵傾くみ月多 芭蕉

淫物やさりせてよとんあり 羽紅

七十余の老醫らまうりさる

さうりさるまうりさる

けるさの老醫らまうりさる

はらふえおれらふあさりさる

おまふらららて言ふまれの年ふ

さうりさるまうりさる

六月に力おくやみ月 其角

百姓とまうりさるつくとあはら 去来

さうりさるやさうりさる 正秀

つみ合ふたのさけやま自由 游力

孫とあさる

○様この

まき葉のあしこやらんるる 燈 智月
まき葉のあしこやらんるる 燈 智月
まき葉のあしこやらんるる 燈 智月

あし川の園をめぐり 芭蕉
あし川の園をめぐり 芭蕉
あし川の園をめぐり 芭蕉

眉髭を面影あしこやらんるる 全
眉髭を面影あしこやらんるる 全
眉髭を面影あしこやらんるる 全

法隆寺開帳南無佛のまをを拜せ 千那
法隆寺開帳南無佛のまをを拜せ 千那
法隆寺開帳南無佛のまをを拜せ 千那

田の畝のまををめぐり 万乎
田の畝のまををめぐり 万乎
田の畝のまををめぐり 万乎

膳所曲水をめぐり 去来
膳所曲水をめぐり 去来
膳所曲水をめぐり 去来

勢田のまををめぐり 芭蕉
勢田のまををめぐり 芭蕉
勢田のまををめぐり 芭蕉

三徳野へ詣りて 尚白
三徳野へ詣りて 尚白
三徳野へ詣りて 尚白

あし川のまををめぐり 半残
あし川のまををめぐり 半残
あし川のまををめぐり 半残

病後

あし川のまををめぐり 乙 刃
あし川のまををめぐり 乙 刃
あし川のまををめぐり 乙 刃

あし川のまををめぐり 嵐 蘭
あし川のまををめぐり 嵐 蘭
あし川のまををめぐり 嵐 蘭

あし川のまををめぐり 膳所 里 東
あし川のまををめぐり 膳所 里 東
あし川のまををめぐり 膳所 里 東

あし川のまををめぐり 其 角
あし川のまををめぐり 其 角
あし川のまををめぐり 其 角

あし川のまををめぐり 草 雪
あし川のまををめぐり 草 雪
あし川のまををめぐり 草 雪

あし川のまををめぐり 探 志
あし川のまををめぐり 探 志
あし川のまををめぐり 探 志

あし川のまををめぐり 芭 蕉
あし川のまををめぐり 芭 蕉
あし川のまををめぐり 芭 蕉

○藤の

あし川のまををめぐり 千 那
あし川のまををめぐり 千 那
あし川のまををめぐり 千 那

あし川のまををめぐり 史 邦
あし川のまををめぐり 史 邦
あし川のまををめぐり 史 邦

素堂之蓮池邊

白面や蓮一枚の粒 あまま 嵐 蕭
 日燈田や時々くくく 乙 効
 日の暮る 鹽の底の蟻 凡 兆
 おそ月も鼻つそあらは 全
 月のあやこつれてそそ 正 秀
 たるあつて 木 節
 あつてこの 野 童
 夕うらふつれて 羽 紅
 まるまの 巴 山
 千子うらふつれて 曾 良
 よりそまうつれて 千 那
 わる人の少御も今や 土 用
 おそ月もあつて 嵐 蕭
 おそ月もあつて 宗 次
 おそ月もあつて 凡 兆
 唇うらふつれて 千 那
 月影やあつての 曾 良

夕の月もあつての 曾 良
 おそ月もあつての 嵐 蕭
 おそ月もあつての 宗 次
 おそ月もあつての 凡 兆
 唇うらふつれての 千 那
 月影やあつての 曾 良

秋

秋風や道とちこち 不 知
 此夕東武よりきき 素 堂
 おひけつとめけつと 杉 凡
 芭蕉をよめけつと 路 通
 人よけつと 珠 碩
 加賀の全昌寺 曾 良
 秋風や道とちこち 不 知
 此夕東武よりきき 素 堂
 おひけつとめけつと 杉 凡
 芭蕉をよめけつと 路 通
 人よけつと 珠 碩
 加賀の全昌寺 曾 良

合款のゆれ... 芭蕉
 七よちら... 杜若
 ... 伊賀
 ... 膳所
 ... 鼠
 ... 杉
 ... 千
 ... 史
 ... 且
 ... 子
 ... 羽
 ... 八
 ... 又
 ... 手
 ... 著

平田 李由
 元禄二年...

... 曾良
 ... 芭蕉
 ... 凡兆
 ... 落裕

... 同
 ... 芭蕉
 ... 同
 ... 芭蕉

... 芭蕉
 ... 芭蕉
 ... 芭蕉
 ... 芭蕉
 ... 芭蕉

○様この

もくわくやむくしあてつねに月夜 風麥
つせよまゝとてくらり時

昔月や去後ふほろ人よあん そん 千子
この月よふ齋のあまよとてくらり

要の押し目ゆきあふぬと月夜 半残
月をせん伏見の城の控 報 去来

おとす才金 あき
おのろく 伊賀 松をよめよ月夜 士芳

加養子坊 あき かりの人のたねのたの
秋後よとてくらり あき 月夜

月夜や栢より あき 備のと 史邦
友達のつねふとてくらり

とてまゝくらり あき
むらふし 伊賀 月夜 卓袋

とてくらり あき 月夜 乙洲
糸籠屋まきの月よとてくらり

吹風のおもや あき 月一川 文草
はらふ あき 月夜 尚白

向のよきあとも月をさる あき 那 曾良

え縁二年つる あき 月夜 目と
とてくらり あき 月夜 人の

古例とてくらり あき
月夜 あき 栢のわたる砂のと 芭蕉

仲秋の望猶子と送 あき 弁 あき 去来
つとあ あき 月夜 あき 月夜

明月や あき 寺の葉 あき 月夜 あき 昌房
月をさる あき 人の栢 あき 月夜 あき 羽紅

借心のり あき 月夜 あき 月夜 あき 尚白
初夜や あき 月夜 あき 月夜 あき 九兆

一戸や あき 月夜 あき 月夜 あき 去来
稗の種 あき 月夜 あき 月夜 あき 越人

浮糟や あき 月夜 あき 月夜 あき 正秀
ら あき 月夜 あき 月夜 あき 荒島

一鳥不鳴山更幽 あき 荒島
物の言 あき 月夜 あき 月夜 あき 九兆
むら あき 月夜 あき 月夜 あき 曾良

○様この

旅枕素のつと合秋の下江戸千里
 鳩吹の深林系の蒼麦畑 珎碩
 上りとりくもそや秋の天 九兆
 辨つるはと者く一籠つる 半残
 田舎間のうすなをりきく葉の白 尚日
 葉をたぬる端まのうすなあうりり 其角
 みるまよ小鷗の鳴りやをらるるれ 珎碩
 こははのおりりくくは梅の奴 土芳
 梅くつく梅あふむくくふふふ 九兆

自題落柿舎

梅めりや梅くくくくくくくく山 去来
 あく梅色やくくく梅の下ふふふかあふ梅 塵生
 此まきく一帯切山のうすなあうりり 九兆

柿田舎

これいこもひあめ拍子のあめふか
 柿田舎の鼓く川音 蚊足
 梅くくくくあつあつあつあつあつ
 梅くくくくくくくくくくくくく 嵐雪

り秋のつみ日霜るるるるるる 文草
 らあるる秋の夕や風わらうく 九兆
 世の中ハ鶯語の尾のひまふふふ 全
 梅奥の鳥あをきくくく秋の音 荷兮

春

梅くくくく人の愁の悔あああ 露沾
 上臈の山はふまきくくくくくく
 候くくくくくくくくくくくく

庭真

梅くくくく砂利くくく流とそあ奥 土芳
 こ川流や岩あふふくくく梅の花 半残
 梅くくく梅色ほのうらひのせくしき膳可 蟬扇
 くくくくく梅はつふふとそ梅のこく 其角
 子良館の後小梅あふふくくく
 梅くくくく子のつりくくくく梅の花 芭蕉

○猿の

應 藪や 雁うく くれの 秋の 梅 千那
片 後く 白うら び び 枝 根 寸 九 兆
日 當りの 梅 枝 くらや 肩 牛 房 支 延

暗香浮動月黄昏

入 ぬの 梅 小 さいと ぬき くら 風 容
武 には ぬか びく 旅 亭の 残 夏

幸 未の けい ぼ ずの けい けい けい
けい けい けい けい けい けい けい
旧 友 嵐 窓 けい けい けい けい けい
あ の ちの けい けい けい けい けい
此 や けい けい けい けい けい けい
身 中 けい けい けい けい けい けい
その 次 の けい けい けい けい けい
けい けい けい けい けい けい けい
百 八 の けい けい けい けい けい けい
ひ けい けい けい けい けい けい けい

憶翁之客中

野 畠 や 鳥 遊の けい 梅 くら 史 邦
その 前 や けい けい けい けい けい 嵐 蘭
その 舟 舟 けい けい けい けい けい 如 行

裾 袢 けい けい けい けい けい 嵐 雪
つ づ けい けい けい けい けい 路 通
七 袴 や けい けい けい けい けい 其 角
けい けい けい けい けい けい 文 草
けい けい けい けい けい けい 其 角
けい けい けい けい けい けい 全
けい けい けい けい けい けい 去 来
けい けい けい けい けい けい 一
けい けい けい けい けい けい 漢 石
けい けい けい けい けい けい 其 角
けい けい けい けい けい けい 九 兆
けい けい けい けい けい けい 奥 日
けい けい けい けい けい けい 探 元
けい けい けい けい けい けい 宅

垣ハカこハカ〜川カハ花ハナふフなナさサ柳ヤナギ〜
まマけケやヤ 捨シいイくク 揚ヨウのノまマみミ
侍シ中チュウのノ西セイ日ジツりリもモやヤ〜

田家イナガもモ在ヰ〜

まマりリ〜
こコらラまマ〜
いイこコあアふフかカまマのノてテ 猫ネコのノまマあアらラらラ

露ツキ沾シ公キミよヨてテ 餘ヨリ寒サムイのノ當トキ座ザ

まマいイ〜
やヤのノ後ノチのノちチ〜
おオうウ〜
あアらラ〜
あアらラ〜
白シロ鳥トリやヤはハ〜
人ヒトのノ〜
まマのノ〜

遠水 尚白 一啖 揚水 芭蕉 越人 去来 龜翁 尚白 龜翁 嵐雪 九兆 其角 尾根 杉峯 元志

陽ヨウさサ〜
かカけケ〜
いイ〜
野ノ〜
うウ〜
やヤ〜
物モノ脊セのノ〜
ほホ〜
まマ〜
まマ〜
まマ〜
まマ〜
まマ〜
まマ〜

荷兮 百歲 土芳 水固 九兆 芭蕉 配力 嵐雪 踏通 野水 九兆 沢雉 嵐虎 猿雖 芭蕉 史邦 羽紅

○篠ノのノ

既龍や苗代ふの畦つこひ 史邦
 陣くまのふ葉の竹や虫の糞 昌房
 菰葉やりたふあるまの終 去来
 とう風ふらうまの終のやうの気 萩子
 柳柳くまのあつとやとんあの子 羽紅
 ろくの気境まきぬほね 三河 鳥巢
 里人の梅あつとる田塚の乳 汽推
 ぼくもてつあきふらうの意のま 半残
 紙まきれてもあつとるあの方 挑中
 つのあつとるまのまのま 伊賀 園風
 日のあつとるまのまのま 珎碩
 芳のあつとるまのまのま 土芳
 雲のあつとるまのまのま 芭蕉
 越より花びらくつとるまのま 芭蕉
 ふらふらふらふらふらふらふらふら 九兆
 柳の葉の樟の枝たふらふらふら 石口
 ふらふらふらふらふらふらふらふら 杉凡

ひくろつの中の柳まや柳まのま 芭蕉

芭蕉庵のつとるまのま

ままのまのまのまのまのまのま 曲水
 水風柳枝くつとるまのまのま 山店

畫讚

白のまのまのまのまのまのま 芭蕉
 白のまのまのまのまのまのま 車来

并のまのまのまのまのまのま

柳牛やうつせのまのまのまのま 羽紅
 柳のまのまのまのまのまのま 坂上氏

東叡山ふあまのま

少坊まのまのまのまのまのま 其角
 つねのまのまのまのまのまのま 尚白

まのまのまのまのまのまのま 文草

○猿の

有母のまつく山崎まはく史邦
たふふたつれて千那

葛城のふり芭蕉
たふふたつれて芭蕉

いふに國を芭蕉
八重の料ふ芭蕉

一里い芭蕉

七又の墓芭蕉

ふん廿年の後芭蕉

おふ松芭蕉

墓芭蕉

まろり芭蕉

あふふ芭蕉

らる芭蕉

はる芭蕉

龍芭蕉

大芭蕉

道芭蕉

源芭蕉

輝芭蕉

焼芭蕉

え芭蕉

海芭蕉

大芭蕉

木芭蕉

史邦

千那

芭蕉

芭蕉

芭蕉

芭蕉

芭蕉

芭蕉

芭蕉

芭蕉

芭蕉

芭蕉

芭蕉

芭蕉

芭蕉

芭蕉

芭蕉

芭蕉

芭蕉

芭蕉

芭蕉

くそこの石くわらうくはさるのる
乙 筋

望湖水惜春

この折いとわく和泉の雲
曾 良

りまるとはけのくこくこくま
芭 蕉

きつての羽を刷ぬまの
去 來

一ふき風の木まふまの
芭 蕉

照川の朝つらぬく川まえ
九 兆

たぬきとおとを源池のう
史 邦

まのくたふまのまのく
蕉 來

くふんくまをまの利本
來 邦

かこまくるまのまのく
蕉 來

まのくまのまのく
來 邦

何ゆもまのまのく
蕉 來

里まえわく午の貝ふく
北 來

ほつまのまのまのく
蕉 來

芙蓉のまのまのく
北 來

吸おハまのまのく
蕉 來

三里あまりののろく
來 邦

このまの盧同う男
蕉 來

さあまのまのまのく
北 來

若れううまのまのまのく
蕉 來

のまのまのまのく
來 邦

いつか二日のあつた
蕉 來

まのまのまのまのく
北 來

まのまのまのまのく
蕉 來

隣とくまのまのまのく
北 來

くまのまのまのまのく
蕉 來

今や別の刃さくまの
北 來

せりくまのまのまのく
蕉 來

おのん切くる花くまの
北 來

まのまのまのまのく
蕉 來

湖まのまのまのまのく
北 來

まのまのまのまのく
蕉 來

まのまのまのまのく
北 來

まのまのまのまのく
蕉 來

まのまのまのまのく
北 來

○猿この

紫の戸やまきまぬのけしきふむ
ぬのこころおろし風の夕くま
押合て暮るいふくらぼろく
たぐらのをのまうと赤とを
一梅歌つらるる室のまを
枇杷のなまふあまきりえら

击来 九 芭蕉 九 凡兆 九 史邦 九

市中小のゆの白ひや夏の舟
けりくくくと門くの夢
二もまふらも果るれ種うあて
序うらうらうらうら一校
はあハ根も足知くそそりあま
たくとひやうらうらと歌
ま村うほろろとらうらうら
蕨の芽うらふり能ゆりうす
道ふのおろりいそつらむ時
能さの七尾のあはほらうき

凡 兆
芭 蕉
击 来
芭 蕉
凡 兆
史 邦
芭 蕉
凡 兆
史 邦
芭 蕉
凡 兆
史 邦

魚の背志らるるとのむとをく
侍人ハハハハ門の 猛
まうらと風と制もあうた
陽後ハ竹のまきまらひき
苗香のまを吹くをそく
傍やまむく寺ふうら
うら川の橋と世とゆる秋の舟
年ハ一斗のぬきそらうら
むら年けん木つけらる
足袋ふらよとけまほらこの道
遊らうらあさけの刀持
てらうらあふらうらうら
戸深ふらむらかひのまを
てんうらまうらうらうら
うらうらうらうらうら
うらうらうらうらうら
うらうらうらうらうら
うらうらうらうらうら

芭 蕉
凡 兆
史 邦
芭 蕉
凡 兆
史 邦
芭 蕉
凡 兆
史 邦
芭 蕉
凡 兆
史 邦
芭 蕉
凡 兆
史 邦

○猿この

まはるふぢく〜居ていぢやうに
命はまじく〜は採集のこころ
さよふ〜ふふく〜い〜い〜い〜い
後世の果を〜これ小町あり
何故はあま〜ふふれは〜
り〜あま〜い〜い〜い〜い
子〜い〜い〜い〜い〜い
か〜い〜い〜い〜い〜い

九兆土芭蕉土去来土

来蕉兆来蕉兆来蕉

九兆

芭蕉

野水

去来

灰け桶のまぢく〜きり〜
あ〜い〜い〜い〜い〜い
然るを〜い〜い〜い〜い
ぢ〜い〜い〜い〜い〜い
ふ代〜い〜い〜い〜い〜い
き〜い〜い〜い〜い〜い
ふ〜い〜い〜い〜い〜い
摩耶〜い〜い〜い〜い〜い

水来兆蕉来

夕〜い〜い〜い〜い〜い
堀の口〜い〜い〜い〜い〜い
力のぬ〜い〜い〜い〜い〜い
遠せ〜い〜い〜い〜い〜い
今〜い〜い〜い〜い〜い
あ〜い〜い〜い〜い〜い
町内〜い〜い〜い〜い〜い
は〜い〜い〜い〜い〜い
さ〜い〜い〜い〜い〜い
ふ〜い〜い〜い〜い〜い
あ〜い〜い〜い〜い〜い
は〜い〜い〜い〜い〜い
あ〜い〜い〜い〜い〜い
夕〜い〜い〜い〜い〜い
人〜い〜い〜い〜い〜い

兆蕉水来蕉兆来水兆蕉水来兆蕉来水兆蕉兆

○様との

うてつふ自惚いとせてせむ
又小太半の純と九也とて
はより田のまやとていふはま
か茂のやうにいよそと社あり
物家の尻ろくろくふとて
るのやうりのやうに迅
まぬつるまはりのやうに
まぬろくろくふとていふは
まぬろくろくふとていふは
まぬろくろくふとていふは
まぬろくろくふとていふは
九兆九芭蕉九野水九去來九

水 來 兆 蕉 水 來 蕉 兆 來 水

銭乙州東武行

旅をままりこの宿のころけ
あそあそらるるま 乃 嘆
まをま ま 山 山 山 山 山
まをま ま 山 山 山 山 山
斤陽ろくろくふとていふは

芭 蕉
乙 切
珎 碩
素 男
脇 男

二階のちいれはつて
おちおちらるるま 乃 嘆
わつらんのもろくろくふとて
あそあそらるるま 乃 嘆
印の別れはつていふは
まをま ま 山 山 山 山 山
あそあそらるるま 乃 嘆
あそあそらるるま 乃 嘆
あそあそらるるま 乃 嘆
あそあそらるるま 乃 嘆
あそあそらるるま 乃 嘆
あそあそらるるま 乃 嘆
あそあそらるるま 乃 嘆
あそあそらるるま 乃 嘆

蕉 男 碩 蕉 脇 碩 男 脇 碩 男 脇 碩 男 脇 碩 男

○猿の

芳ハぬれ紙の取所なき
 小刀の踏又なる細工もこ
 欄ノ大とりこ大羊の意
 うらやといおのふはるはたの浦
 むもやん今せきくもかこきぬ
 此多もいれめとくる破扇
 勢はねきせくちくちくも
 唯まの海ちちくも縁つこひ
 深つこふほとこくめんを教
 形れそと海とちちくも今所多
 うまもとくる牛の刻下結
 野水
 雛の徒と保るこもいせ
 羽紅
 芭蕉三 乙易五 土芳三 珍碩三
 園風三 素男三 猿雄二 智月一
 嵐蘭一 九兆二 史邦一 去来二
 野水一 正秀一 羽紅一 半残四

幻住庵記

芭蕉州

石山の奥岩間のうらや山有園分山と云
 らせしと園分寺の名とけりあうへ一藤樹寺
 原と後つて嬰樹上登る事三曲二百歩あり
 八幡宮とせしめし神降はは原のそ像と也
 唯一の家小い甚忌ある事と两部と和らけ
 利益の塵と因つてとまも又貴し目には
 人の詣りたりといひてけきひ物あつたる傍お
 経持一草の戸よりよりと根無新とたしむる
 りりゆきとて根程ふこととけりく幻住庵と云
 一の傍何じい勇士菅沼氏曲水子の伯父と云
 けりしと今ハ八年計ひくふ成て正く幻住
 老人のあとのとせりて又市中とさるる年
 十年計ひて二十年やちつとさるる善悪のみと
 失ひ蝸牛の象と解て奥羽と浮の最き目
 下面とこく一言すれとあやとくき北海の
 善哉ふきひすと解りて今嵐湖あのはふ漂
 雪の浮葉の流とくまうくき若のつ年乃後

○藤樹の

多かりし軒窓あはれあはれの遠慮あはれ
 灯舟の初はらうとありふりし山のやうとありと
 さくおのひさしめさげふまのなほもさうらひ
 つじのあつ山あおふあつて時をまじくさうら
 宿りしもの候さくあつてこの候さく
 いささくあつてさうらふあつて魂共楚東南ふ
 えしらと身ハ瀟湘洞庭あつて山も未申ふそ
 てさうら人家よとほとふあつて南薰亭より
 松蔭ハ北風海と浸して涼ハ日枝の山は
 のさねより辛崎の松とあつてあつて松蔭の
 海さうらあつてさうらふあつてあつてあつて
 わ田よあつてさうらあつてあつてあつてあつて
 のあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 三上山ハ土家の付りあつてあつてあつてあつて
 柳もあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 つ歳千丈の家持あつてあつてあつてあつて
 いささくあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 のあつてあつてあつてあつてあつてあつて

遠のわり松り柳並あつてあつてあつてあつて
 柳もあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 庵とあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 山民とあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 風とあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 時とあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 春とあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 花とあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 さうらあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 つさうらあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 藤の甲斐あつてあつてあつてあつてあつてあつて
 のあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 とあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 字とあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 まさうらあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 ふさうらあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 枕のとあつてあつてあつてあつてあつてあつて

○藤この

ふふふと初一あるハ宮守の宮里のどろ
丸入あつてあつての痛くはあつて志のを
畑ふふふと我すうらぬ昔終日既ふ山の
際うらうらと夜を静く月をたてて
うらうらとひさふふふと家とぬらふ山
跡とくくくくくくくくくくくくくくく
世といひくくくくくくくくくくくくく
一物もくくくくくくくくくくくくく
まふの地とくくくくくくくくくくくく
扉ふくくくくくくくくくくくくくく
とせめあつてくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくく
はくくくくくくくくくくくくくくく
老れいふくくくくくくくくくくくく
うらうらくくくくくくくくくくくく
とくくくくくくくくくくくくくくく

題芭蕉翁國分山

幻住菴記之後

何世無隱士以心隱為賢也何處無山川
風景因人美也間讀芭蕉翁幻住菴記乃
識其賢且知山川得其人而益美矣可謂
人与山川共相得焉迺作鄙章一篇歌之
曰

琶湖南兮國分嶺

古松鬱兮綠隴清

茅屋竹綠總數間

内有佳人獨養生

滿口錦繡輝山川

風景依稀入俳城

此地自古富勝覽

今日因君尚益榮

元禄庚午仲秋日

震軒具草

凡右日記

時も皆中んくくくくくくくくくく
曲水

○猿との

くつさぬの流る川の色 友の山
野水
去来
元兆
仁那
弥碩

贈紙帳

おりのりや 残性よけと 掃りりり
野徑
里東
乙易
怒誰
探志
元志
泥上
史邦
正秀
柳陰
如行

推のあをくくして 夢やせしの夢
脇所 脇所
美良島市 美良島市
市隱

文上云らす

猿所尾や 早苗のくけふ夕涼
半残

麦の粉と土産を

一袋をくけやも 畑田のこくく麦
之道

書音

一夏をくけくくくくくくくくくく
長寺町 長寺町
魯町

夕まや 袴の 臭の 一まをくく
及有

登猿腰掛

松尾や 田との 山の くらくらより
尚白

贈書

ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜
北枝

亦も 寄めく 情ふ ま〜ま〜ま〜ま〜
木前

包紙よ書

徳ゆきまき 美成や 萩の 寄
膳所 膳所
弱

病の 花らねと 佛の 土産を
智月

石山や けりくく 果せく 秋の 風
羽紅

桐の梅やきれて心むきりて
里いづまめりて心むきりて
嗚やけりて心むきりて
越人よ同く訪ふ

蓮の葉の休ふ花入るる那
明年亦生る旧庵
さふやけりて心むきりて

同夏
さふやけりて心むきりて

ま〜〜〜やけりて心むきりて
曾良

跋

猿蓑者芭蕉翁滑稽誓之首韻也非比
彼山寺偷衣朝市頂冠笑只任心感
物写興而已矣洛下逸人允兆去来
随翁遊学棋館竹窓躡等凌節斯有
歲屬撰此集玩弄無已自謂絶超狐
腋白裘者也於是四方唵友憧々往
来或千里寄書々々中皆有佳句日蘊

月隆各程文章然有昆仲騷士不集
録者索居竄栖為難通信且有苑倪
婦人不琢磨者鹿言細語為喜同志
雖無至其域何棄其人乎哉果分四
序作六卷故不遑廣搜他家文林也維
貶元祿四稔辛未仲夏余掛錫於洛陽
旅亭偶會兆来吟席見需記此夏題書
尾卒援毫不揣拙戲幾一蓑高張有補
于詞海渙人云

風狂野衲

文艸漢書

証竹書之

續猿蓑

八九百をてるはる柳う作
まのうゝまの島なるあま
神あらるるをれらの海嶽を
因いとてつゝ既のふるまひ
きのつゝ日初とまの月の毛
狗脊うぬて机をくいなふ
深箱もこゝに扉ふれり
孫の泣とる。祖父の信沙
根をうゝあてはるる。眩力
煤をまよつてはや雁の伝
物本のやまのついで。賣うあまて
十里をうろの金あく出うて
茶のまふや海野をわりのま
けらまう門なと門の書つけ
りつゝつゝ。後の沙はれき。湯ぢき
やれとまあまをまのる。つま

芭蕉 沾圃 馬 里 蕉 沾圃 蕉 里 蕉 沾圃 蕉 里 蕉 沾圃 蕉

○猿蓑

有由ふゆくくそのたてあひて
えりふさくく入観のさえに
きやうきよす川流れう作を
浮勢のり向ふるくくくく
そむふふふの仲間さあくと
くくくくそのの鳴るきや
禅寺く一日あきふ砂の上
彼の角のさくく 費 究
陰のりの年く後さくくく
なれぬあくくくくく
ゆゆくく侍中お家のあさく
解の業のさくくくく
むのさめてあふの板もむく
は倍さくくく かのわた
別やうにさる坂のさく
まくくくそのさくくく
くくくくくくくくく
そのと方入くくくく

沾 蕉 菟 里 蕉 沾 蕉 菟 里 蕉 沾 蕉 菟 里 蕉 沾 蕉

花のさやのさくくくく
あくくくのさくくくく

里 菟

雀のさやあかしてほるさく
くくくくの岸のあくくく
くくくくくくくくく
ふのくくくくくく 其酒
そくくくくくくくくく
暈と交て外の院 是く
悔くくくくくくくく
法状さくくくくくく
くくくくくくくくく
くくくくくく 園方のあ
ゆくくくくくくくく
風さくくくくくく 穂乃月
きあ秋のさくくくく
そくくのさくくく

沾 菟 里 沾 菟 里 沾 菟 里 沾 菟 里 沾 菟 里 沾 菟

○續猿

明らつる浮勢の幸成の〜 露
薫ハあ〜うれ ころぬ 一徳
佳糸とあ〜うてきと花整
とみ種 みる半 乃深 纏
〜ひまの海ををと掃ゆし
あ〜ぬ 命と〜 枯ふてあゝ
〜くふ 命と〜の老と中あ〜
之候 命と〜の命のり〜むひ
けのまふ〜ゆる 若子の命と重〜
あ〜む 命と〜まの 若〜と〜
口〜ふ 寺の指圖をを〜
疾のあ〜このあ〜ハ 枯〜
枯〜〜 命と〜の 小高ひ
早下〜〜と 命と〜の 料理〜
乳〜 秋あ〜〜の 命と〜
糸〜〜 命と〜 命と〜の 命
此 命と〜 實の 命と〜 命と〜
ち 命と〜 命と〜 命と〜の 命と〜

里 沾 里 沾 里 沾 里 沾 里 沾 里 沾 里 沾 里 沾

木のま〜と 熊子 命と〜の 命と〜
すて 命と〜 命と〜 命と〜
花のり〜 命と〜 命と〜 命と〜
命と〜の 命と〜の 命と〜の

里 沾 里

い〜〜 命と〜 命と〜 命と〜
あ〜の 命と〜 命と〜 命と〜
大根の〜 命と〜 命と〜 命と〜
上と〜 命と〜 命と〜 命と〜
町切 命と〜 命と〜 命と〜
あ〜ち〜 命と〜 命と〜 命と〜
知母 命と〜 命と〜 命と〜
あ〜の 命と〜 命と〜 命と〜
組の 命と〜 命と〜 命と〜
同利〜 命と〜 命と〜 命と〜
状書と 命と〜 命と〜 命と〜
ま〜と〜 命と〜 命と〜 命と〜

里 沾 里 沾 里 沾 里 沾 里 沾 里 沾 里 沾 里 沾 里 沾 里 沾

○續猿

草の葉をわらわらみぬの地ちぢり
浮釣をまわつゝ入綿まりの雨
うと旅ハ終つてくれまわりの
まわりの 鳴る川のささら
柴の舟の舟より舟の舟
柳の傍へ門をききりり
百歩ありて世の世を
こまをと振ふあつり
清おの浪成つてぬり
くしのあつり
砂と這ふ藤の中の 治流の
あを人々の心
火燈の火つて揺る
一ふふ 唯の 年
折しくは突目の靴る
浮ふか城のちうふ
はるる
ゆりののまふふ

里沾菟里沾菟里沾菟里沾菟
里沾菟里沾菟里沾菟里沾菟

ふ舞ふ娘とや川に
まふの元とまふ
花のあつて
寺のひけ
かまふ
一ふふ

里沾菟里沾菟里沾菟里沾菟

積善の
日とまふ
あつり
原竹
鶴あり
をり
まふ
まふ
響り
中国

然考蕉然考蕉然考蕉然考
然考蕉然考蕉然考蕉然考

○續株

朝日のひらひとてくやち振るゑ
 一をみぬゑくちくくくつゑる
 きささんいふまゝの日の振杓
 らくゝ門あるありらさまの丹
 和あゝゝ 畑の人のうけまゝりり
 を度える 溪の小いさゝ
 えてあるに三井はあのかゝり
 昔持ふゝいふいゝふゝ日
 こも風の又あゝあゝ此あゝ
 わらゝゝ 照とまゝのうらゝゝ
 後家の四極に今なぞあゝら
 嗚呼のさゝくもむとせられぬ
 大せりまゝの二りあるまゝの屋
 今まゝにゝの 中の 匠 道
 実の世まゝに 近年の 他
 酒よりと者のやけさゝもして
 赤鷄頭とをば正ぬ ん

蕉 然 考 蕉 然 考 蕉 然 考 蕉 然 考 蕉 然 考 蕉 然 考 蕉 然 考 蕉 然 考

定ぬぬ 始のこゝろを五三河え
 藤汗のともある今敷くこの髪
 もの髪とらゝゝゝのこすけの風
 大工つらひの奥ふさぶる
 糸巻もくゝいふゝととるゝ
 うらゝて市の巾と何ゝあゝ
 此あゝゝ 海々た乃けしれそ
 鴨のあゝゝのまゝめけぬ

蕉 然 考 蕉 然 考 蕉 然 考 蕉 然 考

今宵賦

野盤子 支 考

今宵と六月十六日のくらあふがう月ハ
 東方の虹あふうけく衣裳ふ湖左の秋
 とぬくむさゝのいふ宵のあゝひさゝりやうり
 早の序とらゝらゝとととゝく 酌そみ
 とらゝ人ゝとゝく小燈をみしておゝひ
 山さぶのゝとゝあゝくかゝうちゝるゝ人さゝ
 さらゝ人をとゝとゝりゝとゝあゝゝたゝあ

○續棟

なごらふ糸のこゝろかみり雀のれ
 一とこむひみの美とまほしむもて
 つとてゆりりる河雙川は深川のそよをそよ
 のま秋とよりさめくよとれつ三月の
 あまいとこつてほ笑の山甲小工母の吉
 墳とそよひ流の暖縁山小岳をそよ
 か茂徳國の深こまをそよすくそや
 けしけし秋とまをれんそよのふふふ
 う湖あみの納海とこをれんそよこ
 こに甲の美をたぐくまそよそむの駕
 とそよむ今宵とそよそやとそよそよ
 て傍ありほりて傍ありて傍あり
 けのあつたこのまよそよのあつたこの
 岸ふしれをそよそよそよそよそよ
 まそよそよそよそよそよそよそよ
 なる一葉年あらじ一人のそよそよ
 てやそよそよそよそよそよそよ
 くるるむ人の顔ふりひておちえす精

時々くおもひのこゝろをそよそよそよ
 はたのむおもむきとこの方とそよそよ
 一をそよ考とそよの方ふれとそよそよ
 時るのれいむくむそよそよそよそよ
 ころそよ湖のそよそよのそよそよそよ
 まそよそよそよそよそよそよそよ
 きそよそよそよのそよそよそよそよ
 そよそよそよそよそよそよそよそよ
 よあとのませんとなそよそよそよ

友のそよそよそよそよ
 家いそよそよそよそよのそよ
 意いりそよそよのそよそよそよ
 意そよそよそよそよそよそよ
 身そよのそよそよそよそよ
 志そよふてそよそよそよそよ
 花と持場のそよそよそよ

芭蕉
 曲翠
 卧高
 雅然
 支考
 芭蕉
 翠

○續後

山々々々ふふ名と書て出ま
 版根ある向梅ふふふむ大舟張
 ぞろぞろエ夫と志とる思津
 おのろろり寄ふよまろく梅のま
 持佛のうろふふろ日さし
 年睡ふ茶と着ましとんて蘇
 秋風とるる門の居風呂
 る引て旅をい初る月の影
 尾流しつとつとつとつとつと
 解好のしとつとつとつとつと
 四月のれとつとつとつとつと
 去風とる善後のつとつとつと
 翁とつとつとつとつとつと
 晴くまぬ筆に男もつとつとつと
 何その時と山伏つとつとつと
 筆作とと捧ふ付とつとつとつと
 巖とつとつとつとつとつと
 相名と臨とつとつとつとつと

高 然 考 蕉 翠 高 然 考 蕉 高 翠 蕉 考 然 高 翠 蕉 高 然 考 蕉

涼の月れり舌の氣まひ
 舌とつとつとつとつとつと
 若智のふとととととととと
 村付とつとつとつとつとつと
 そろくつとつとつとつとつと
 生をたつとつとつとつとつと
 今つとつとつとつとつとつと
 ちまこれ待のとんふつとつと
 臺つとつとつとつとつとつと
 梅つとつとつとつとつとつと

然 翠 高 然 考 蕉 高 翠 然 考 然 高 考 然 高

春と部 花梅

温名のあつとつとつとつと
 春何ふふ又ふん月つとつと
 形ふ似ぬあつとつとつとつと
 ちつとつとつとつとつとつと
 角つれとつとつとつとつとつと

露 沾 其 角 芭 蕉 洞 木 丈 草

花をて折るる花のやけさか 洒堂

写きおる酒屋ふあそひて文まらぬ

由碑のままらふおひおらうらふ

酒飲智く了のまきせよ堂の花 惟然

眺しつて情おされうらうらうら 支考

人のまきトかく家いりまの梅 沾徳

くゆりやゆ中一の花のわ面 様雖

七うまりあふふあふる也中か 陽和

足る折ありふらうらやまの梅 乙州

咲る花とむらうらまらるる木節

さる花もあふらうらえむらうら 沾荷

二の梅もさくく咲らむ綱の鼻 子珊

善虫のむ方ふひうら梅小 卓袋

田家

葛翁の名おとまん山さくら 李里

咲うらる花も梅葉ふ十石 桃首

山門ふ花あふらうらふのふらう 一桐

なうらふの梅もあふらうらうら 如雪

花ををきせして似合む人の維 其角

とれやうふを葉あわら花のま 少年 一鷺

ぬらむらぬものえりや折の花 卓袋

一日の花えのあそや且ぬ寺 沾圃

八き梅葉あふらうら梅葉 全

若菜

露流や梅こほら、土あうら 嵐雪

葉のゆやむのころまうら 曲翠

夕陽のあふきくやる薺小 孤屋

一うらの牡丹いさくころまふ 尾頭

梅附柳

まらやうまをさくくの人月と梅 芭蕉

きくららるやうまおれし梅の花 野水

さう梅のあそひあそひゆを充て 其角

里坊う確きくや梅の花 昌房

投入や梅のおふら梅の葉 良品

痛惜のなをく梅のさうらふ 曾良

あうらうらうらあそひ梅花 万乎

○續稼

魚日
千川
大舟

馬群の社上端て
遊糸

身あつけとけりや梅の雛まら
千那

それくの流のまらや梅柳
意元

時く川柳
李由

ちうをを考くちうや右柳
九節

こねのまられくまらるの曲
巴丈

柳とくけてるまらる柳くね
其角

鳥附魚
史邦

そふま刀くくる美塵くれ
智月

うくまやゆふ梅紙の風をう
芭蕉

そふまゆふとゆめんなくくも
去来

鷹や柳のうくく霧のまら
洒堂

蹴るまらゆふつまらん旅のまら
傘下

弱者のまらゆふつまらん旅のまら
長虹

燕や田とまらうくくまらまら
野童

菓の中やまらと細くくねまら
峯嵐

存子や婦人まらうくくねの櫃
槐市

蠅うくくまらうくく雀の子胸小
河瓢

り鴨やまらゆふつれまら破時み
釣帚

芳野西河の歌

鮎の子のんまらまらうくくねのまら
土芳
かけらうくくまらまらうくく少ねま
圃水
まらまらのかまらまらまらまらまら
子珊
白糸のまらまらまらまらまらまら
山蜂

春草

あまらまらとまらまらまらまらまら
具角
ちうくくくくくくくくくくくくくく
止秀
まらまらやまらまらまらまらまら
此筋
まらまらまらまらまらまらまらまら
羽紅
川流やまらまらまらまらまらまら
襖雖

○續據

宵のるるや土守のまじり
 車來
 歩のや梅の花ふよりうたき
 荒雀
 落るるもまじり鬼あま
 馬見
 境よりくろいなる九の草
 拙侯
 踏まじり土境の切目や藤の條
 乃龍
 ふく倒る形ふさく土大根
 正秀
 子わらやまじり山の形
 夕可
 味増の形をのふらひに肥る
 一桐
 月の形く梅の花をば梅の花
 圃蒔
 蒲と英やまじりるる花
 猫魚 附明蝶
 探丸
 こらねや月ふらふ啼梅の意
 支考
 うき意あつてや梅の空喰
 美已
 おもしろその字くける空梅小
 柳梅
 白日出の也
 柳梅
 とありては廻い部く明梅
 惟然
 衣文まのうらやまじり梅の
 聞指
 疎の音おのり梅よりくうた

風吹ふ梅の如きる少鯨出羽 魚行
 春鹿 雪窓
 振るるしや房の角 沢姓
 春耕 木節
 妙福のくろくあてあり梅麻 此筋
 苗れやまじり梅の角 一鷺
 千川の田とうらまじり梅枝人
 挑附株
 白梅やまじりるる梅水の香 桃漆
 今柑いよまじり梅の花 介戎
 伏るるもまじり梅の花 雪芝
 梅さくも中まじり梅の花 水鴨
 花さくも入梅や梅枝の振舞 其角
 江東の夢由り梅文の懐回の法
 おのり経文のまじりるる梅の
 光のつらりと
 小豚脚 小まじりやまじりるる 角上

續梅

後ハ板ノくきふたは枝ノ丸
残香
左あろてんや枝のちその宛
洞木
ちり枝あまうりわらうふ流てくる
野坡

秋冬 附 躰 躰 藤

山吹や枝ふ干ころる善一守
聞指

田家の人小對して

山吹をいふあうらふを能飯あまは
洒堂

根あまはつしの後や城のよう
雪芝

藪野や穂まふとくく後の花
荊口

庚月

山の隈とちりく血あうまの月
魯町

夫の附 夫を佳

およりとてそのたろりやまの毛
荊口

ゆきく 朝を念たり夫の雨
乃龍

まふやを丸あうる春とら
遊力

わらうらま馬う武江の流るを

くらひらう時

まふやがく川うくくは平
支考

春もや光うつろく入能流う遊
桃首
味香やるうり遊うくそのま
風麥
りくく能流の居る石の直
風睡

沙干

のろり帆の流流をまぬは干か
去来

ふ川ふ多々の氣れを以干か
聞指

雑春

おろりやあをれ初るま加能
許六

まふややまをそそ散る桐の苗
風睡

まふやとの花のそそくちやま流
土芳

うけろりや暑うり枝の御ちり
配刀

小鳥をたふたのそろれや能流う歌
万乎

あまふ小指流や空を市の中
苔蘇

あのをいへ川雀うられやめけ糸
均水

まのりやまのあの中のをあま
正秀

三尺の銀をあまのちの流
山花

川もの中ふあまの田原とら
支浪

三月

續孫

緒ねと白濁愛のふゆう非 支考

感思

あまのやのふまゝ〜と暮少^{少年} 武仙
遠道〜のうらみのそよ所ふ 百歳
〜のまや箱舞〜のまら〜き 尚白
まら舞の具ふら〜の〜の貝 圃落
母方の改り〜やまを始 山峰

詩よ〜の各書と顛倒と〜の〜

と老父の文ふち紙〜はれい

初日やお原を〜の〜表 千川
人ものぬまや境のららの梅 芭蕉
四つ風のやのうふ路〜よあ〜雲 其角
標の世何海ま〜のやま〜う〜 嵐雪
万果お〜た〜ふら〜のて松の陰 去来
ま〜り〜梅え〜る〜の〜を〜 土芳
と川を〜や〜く〜は〜る〜の〜 凡睡
え〜り〜や〜ま〜と〜丘〜の〜の〜梅〜の〜花 棟雄

ふれふいよ川 惣原や〜の〜ら〜と
春ま〜〜自入おと〜せ〜や〜花の〜夫 野童
美由のまふ〜と〜包尾の綱の〜う 耕雪
魁のま〜の〜ま〜と〜わ〜く〜西日か 左柳
く〜川〜ま〜や〜の〜い〜ま〜枝の〜白〜比〜丘〜尾 前川
枇杷のま〜ゆ〜ま〜あ〜れ〜と〜と〜ま〜あ 斜嶺
世のま〜ま〜や〜ま〜あ〜れ〜と〜と〜ま〜あ 山峰
海の〜ら〜や〜ち〜ら〜ら〜けの〜や〜り〜れ 任行
え〜り〜や〜ま〜と〜と〜海〜あ〜ま〜と〜梅の〜ふ〜若 竹戸
我者〜と〜う〜ら〜ら〜に〜境〜ま〜と〜あ〜ら〜り 是楽
から〜あ〜れ〜や〜籠〜ふ〜和〜ら〜と〜あ〜ら〜り 沾圃
重〜り〜の〜ま〜の〜り〜よ〜似〜く〜う〜る〜る〜 圃角

夏之部

郭公

曉の電と〜と〜ら〜や〜ほ〜と〜〜凡 其角
〜〜〜と〜と〜ら〜や〜明〜の〜の〜さ〜く〜得 文章
〜〜〜と〜と〜ら〜や〜あ〜は〜ら〜ふ〜た〜〜き〜ん 曾良

○續棟

胃魂のあけあけ 朝顔の山 支考
雪のあけあけ 雪のあけあけ 如雪
燕のあけあけ 燕のあけあけ 芦本
花のあけあけ 花のあけあけ 子規

あけあけ

郭公のあけあけ 郭公のあけあけ 沾圃

木附草花

花や口ふとくれくるとあけあけ 聞指
里くのあけあけくるとあけあけ 野萩

園中ニ夕

ははのあけあけ 川を柿の花 此筋
あけあけのあけあけ 柿の花のあけあけ 千川
あけあけのあけあけ 柿の花のあけあけ 素龍

越山家の百合

白きやあけあけとあけあけ 支考
あけあけのあけあけとあけあけ 尾頭
あけあけのあけあけとあけあけ 沾圃

あけあけのあけあけとあけあけ 伊多 宇多都
あけあけのあけあけとあけあけ 拙候

あけあけのあけあけ

あけあけのあけあけとあけあけ 沾圃
あけあけのあけあけとあけあけ 芭蕉
あけあけのあけあけとあけあけ 荒蒲
あけあけのあけあけとあけあけ 残香

あけあけのあけあけとあけあけ 此筋
あけあけのあけあけとあけあけ 白雪
あけあけのあけあけとあけあけ 良品

瓜

あけあけのあけあけとあけあけ 芭蕉
あけあけのあけあけとあけあけ 至曉

あけあけ

あけあけのあけあけとあけあけ 瓜 瓜弦

早苗

あけあけのあけあけとあけあけ 長崎 瓜七
あけあけのあけあけとあけあけ 聞指

結核

ふらふらの種ふれくもあや
田植奇さうある熱の御い
一田つりあゆらうてやあ
さうのあゝ蕪あふるああ
虫

あまのの種あふらうもあ
さうのあふらうのあふらう
納涼

あまのの種あふらうもあ
さうのあふらうのあふらう
半残

あまのの種あふらうもあ
さうのあふらうのあふらう
史邦

あまのの種あふらうもあ
さうのあふらうのあふらう
漫真三白

あまのの種あふらうもあ
さうのあふらうのあふらう
洒堂

あまのの種あふらうもあ
さうのあふらうのあふらう
支考

あまのの種あふらうもあ
さうのあふらうのあふらう
魚同

あまのの種あふらうもあ
さうのあふらうのあふらう
重行

あまのの種あふらうもあ
さうのあふらうのあふらう
北枝

あまのの種あふらうもあ
さうのあふらうのあふらう
支考

あまのの種あふらうもあ
さうのあふらうのあふらう
許六

續猿

あまのの種あふらうもあ
さうのあふらうのあふらう
野萩

あまのの種あふらうもあ
さうのあふらうのあふらう
万平

あまのの種あふらうもあ
さうのあふらうのあふらう
盛夏

あまのの種あふらうもあ
さうのあふらうのあふらう
野萩

あまのの種あふらうもあ
さうのあふらうのあふらう
正秀

あまのの種あふらうもあ
さうのあふらうのあふらう
乙州

あまのの種あふらうもあ
さうのあふらうのあふらう
怒風

あまのの種あふらうもあ
さうのあふらうのあふらう
素覽

あまのの種あふらうもあ
さうのあふらうのあふらう
我峯

阿つこりや海さうさうさうのむらり
鏡あふくし早さうのまはそり那
粘りたる地もぬのあつさうれ
まよれいじらと流るるのそら丸
印 苔
卓 袋
里 東
沾 圃

竹の子

菊くしめさうさう岸の崩るまよ
よの布や煙ののりる序章の空
可 誠
曲 翠

牡丹雨 附五五

あつたやまもさうさうの微雨の中
あつたれや霧かよ紫の 畑
ふゆるや煙よれぬ破つて
夕まよさうさう今日の日 傘
白るや草のまよさうさう泥の芦
夕まよさうさうけさる布の皮
ゆらまよさうさうあやま一町
不 玉
芭 蕉
沾 圃
拙 候
苔 蘇
曉 烏
圃 水

蟬

待面や中屋うして探のあ
きつとまて啼くまよさう探のあ
正 秀
胡 故

鹿の解凍さきあやあつさう祥
蟬のやめり織雲のまよ時分
乙 洲
曉 烏

のり

菫の月や湖さうさうさ川 櫻
葉 蛤

雑夏

屋敷してまの御やむらさき
まの舎よまよまよさうさうや寺の畑
まよさうさうさうの中のみまよさう
杉 瓜
荊 口
如 真

川 船 舟

まよさうさうさうさうさうさうさう
まよさうさうさうさうさうさうさう
まよさうさうさうさうさうさうさう
文 鳥
葛 栗
水 鴨

まよさうさうさうさうさうさうさう

魚あつる幸りあれ流うさうさ
杉まよさうさうさうさうさうさう
沢原やまよさうさうさうさうさう
蜻蛉つもの川まよさうさうさう
馬 覓
重 翠
野 童
水 鴨

晋の潤明さうさうさう

續 振

室の形くろくすの味や 草 芭蕉
粘りそぬ惟子めくろくすの味や 惟然

貪僧のくろくすの味や
よくすの味やよま日の細海を平本
みしてせらるる文よ

惟子の粘りふいやまーたは百 支考

穂の部

名月

名月よふふのくろくすの味や 名月
名月の光くろくすの味や 穂 島

あゝの穂をぬめらすくろくすの味や
おこの二の味やうーぬすくろくすの味や
この味やうーぬすくろくすの味や
川へくろくすの味やうーぬすくろくすの味や
くろくすの味やうーぬすくろくすの味や
園位ちくろくすの味やうーぬすくろくすの味や
芳横くろくすの味やうーぬすくろくすの味や 平田

あゝの穂をぬめらすくろくすの味や
おこの二の味やうーぬすくろくすの味や
この味やうーぬすくろくすの味や
川へくろくすの味やうーぬすくろくすの味や
くろくすの味やうーぬすくろくすの味や
園位ちくろくすの味やうーぬすくろくすの味や
芳横くろくすの味やうーぬすくろくすの味や 平田

支考評

名月の海より冷る回巻るぬ 酒堂
四月や西よりかきくろくすの味や 如行
かのくろくすの味やうーぬすくろくすの味や 露 沾
くろくすの味やうーぬすくろくすの味や 智月

○續椽

去月や去月の陰を人のり 闇指
 明月や空科よりつらきあり 涼葉
 明月や空科揺る影をさし 不玉
 中切の梨あまのつく日又 配力
 去月や空のつらきあり 左柳
 明月や空のつらきあり 圃水
 明月や空のつらきあり 山蜂
 去月や空のつらきあり 風国
 去月や空のつらきあり 重笑
 明月よこれこそ空の影あり 泥竹

しせのいふあつてかりの意と
 あつていふあつて

うらまえて空の地とつらき日をか 支考
 去月や空のつらきあり 空牙
 柿のきのみ脚と去月をか 如真
 山鳥のつらきあり 宗比
 去月や空のつらきあり 木枝

去月や空のつらきあり 枝葉
 明月や空のつらきあり 丹瓶
 花入のつらきあり 野萩
 正秀

海川のつらきあり 水草
 去月や空のつらきあり 景桃

家三老女とつらきあり 七文おぼろ
 秘してつらきあり

去月や空のつらきあり 沾圃
 去月や空のつらきあり 馬寛
 去月や空のつらきあり 里東
 去月や空のつらきあり 牧童

海川のつらきあり
 川とつらきあり 芭蕉
 去月や空のつらきあり 全
 去月や空のつらきあり 猿

七夕

○續様

文りやも田のうへの天の川
早命とんをきて流をたは
形りのききりくや早の流
たぬりことりぬる神のついで
朝風やまの夜りの園りち

立秋

粟ぬくや庭ふらゆるる秋の秋
秋の川の中少あづるるまは
秋草

秋草

秋草のそ遠きを枯枝か
細くはれあゝぬ枯枝のつら
女帝花ひひぬる骨の染うぬ
とこれ一枯枝の杖ふもぬれぬ
一きちハ花のふちり一柳道
う園さうはれやあをさうま

贈芭蕉菴

百合いらことまをきと流るる命か
さう眼のまやうり一麻一すまひ花
史 凡 史 邦

枯のちのまふいものへ和勢は花
勢のちのちのちのちのちのちのち
おこやるるあさるる秋の舞
若のまのちのちのちのちのち
山人のまをきと流るる命か
凡あふまゝくくくくくくくく

朝のうけ

秋のちのちのちのちのちのち
あさうのちのちのちのちのち
あさうあさうあさうあさうあさう
あさうあさうあさうあさうあさう

虫附鳥

きわうりの侍ふはけりひいひひ
寛るや秋ふおんくくくくくく
火の備て胸ふすうくくくくく
秋のおやまゝと鼻ときんくく
このまや形ふ似合く月の歌

○續後

方半 芭蕉 至境 雪芝 荷兮 桃妖 杉下 田上尼 關指 風麥 其角 可南 北枝 正秀 水鷗 杜若 柳梅 濁子 馬寛 鳥栗 支浪 露川 乙州 沾圃 東潮 涼葉 惟然

陸路やらの味ある羊の毛 探九
 端飾の枝とひやほつ石の毛 葛帯
 草の露も静さくくくん 示峯
 ぬけくくくくくくくくく 文草
 馬の毛もくくくくくくく 馬寛
 鶺鴒の毛もくくくくくくく 水固
 粟の穂もくくくくくくく 支考
 老の毛もくくくくくくく 芭蕉

秋風

秋風や二葉もくくくくく 游力
 峯子の露もくくくくくく 式之
 何れもくくくくくくくく 支考
 松の毛もくくくくくくく 凡国
 おのろくくくくくくくく 圃燕
 ふんもくくくくくくくく 九節
 あれくくくくくくくく 猿 雖

稲妻

稲妻くくくくくくくく 稲の夜
少年
 一 東

稲妻やきくくくくくく 宗比
 明木の毛もくくくくくく 土芳
 いもくくくくくくくく 芭蕉

木實 附菌

圓栗の毛もくくくくく 為有
 炭焼ふんもくくくくく 玄虎
 秋空やりくくくくく 酒堂
 けくくくくくくく 重翠
 きの毛もくくくくく 沾圃

伊賀の山中ふたの里居と坊にて

松茸やくくくくくく 惟然
 きの毛もくくくくくく 芭蕉

祝

海山の舞もくくくくく 北 鯤

鹿

尻毛もくくくくくく 凡 睡
 鹿の毛もくくくくくく 一 酌

農業

○續様

起しきし人ハ近々り蕎麦の花 車甯
あつち小狸おひく小徳意小 買山
さきくけのるるりくきく 晴の楳 如雪

りせの斗後小山家とそまぬく

蕎麦より中くこきそりちるあは家不 芭蕉
子婦前くあつちくちや少百姓 乃龍
山雀のここやう小唱きおの楳 斗從
居りよきよ河東蹴あつちまあ如 支考
アおのきや芋のまんと刈 全
机をこき路ふあつち蕎麦の茎 惟然
百あつちつちくち相とあつち 木節

大師りあふあそんで格作くち

わのくねふまひんきう

そのつちや西瓜と戸の花の楳 沾圃

兼

あつち二百十日も恙あつち 葛平
あつちくちやわく白菊のひ牡丹 濁子
あつち山雀のちちふき 支考

題画罷

ひるまきやうく山雀の葉のあ 元峰
備りけくちのちややくちの葉 支草

暮秋

度は色や脊負くち冷る秋の葉 野水
り秋と鼓うのちや眼のつち 乙州
り秋とくちと度けくち葉のつち 芭蕉

雜秋

あつち河をつち中く綴一ツ 之道
あつちくちのちあつちん松の中 團友
けり葉の望ふちつちおきか 畦止
けり楳やえれ時あつち秋のち 四友
あつちくちふあかちちちくち 萩子
あつちあや楳くちこれのちひち 万平
柿のちちふ焼くちと雲らんち 宗波

本間と馬々宅ふ教骨のわのひ

敵とくまつくち能まるちとと盡く

柿葉のちちのちちくちちち

續録

せし糸のしそしれふここのちさふ
 ふこしめしんやかの獨精と花こく
 冷ふまふしのそわくくくくもた
 このゆふのふふふふふふふふふ
 梅まやふふふふふふふの穂 こそ成

冬の部

時雨附霜

こはれのほのほ目やえらつ時
 ちんれほそ又松風の只おうそ
 かつえうりんかまふれお同も
 一時るまこころこころり終ふ
 和しくれや雪のそ午の菜加減
 平押うむ返田くりり同ふ
 葉まふやしくもくれのそまら
 後まると出よ芳ゆふのおまら
 空然のわてハ川也時るう那
 又うおや後うららるうれ

野坡 北枝 芭蕉 露沾 馬莧 野明 簡指 空牙 為有 鶏口

んふそそく香妙とめくはとれが
 柿色むりねいふやむしりくれ
 そくしよりふれくくふ森時ふ
 ほそとそそくこのまふおこりの
 日影よりそそあはあつうそそ
 沖西のね白くうおは時白く
 えらあや大のおくく丸のほ
 ひく川をそそふくのそほのそ
 支考

野萩 露川 里圃

京堂三葉園一書

雪と陽の宮と非そ母のそそあまらけ
 竹うすいさそのほふたのまこそそ
 やらそ菊花ひららつ射火を陽とそ
 ちちうあまらうのハ辰を陽あそ
 ながさわくわあらふそそそそそ
 泳くそそそそそそそそそそそ
 みあつぬ

葉の音やそそふ切らる履のそ 芭蕉

續後

袖の色や紅あけりうらまの赤 其角
 葉の青も味ふらうと清きや萩の中 桃隣
 八重のるやあつらひの葉の赤 沾圃
 何れのあけりうらまの赤の枝 曾良
 葉の白もあつらひの赤の枝 馬寛

柴桑の隠士 尹彦の琴を聴く
 竹の葉も味ふらうと清きや萩の中
 八重のるやあつらひの葉の赤
 何れのあけりうらまの赤の枝
 葉の白もあつらひの赤の枝

草附木

ふゆや 傍に寝られし日の遠る 曲翠

素堂

水心の花のうらや萩の赤き 惟然

范蠡う趙南のそとを

山家集の題ふあふ

つたふとらわさぬ葉の少うれ 芭蕉
 山を花のいろより用く清り花 車庸
 あつらひのいろやうらまの赤 土芳
 山を花のいろやうらまの赤 露笠

本まふ 附冬枯風

わりのあつらひの葉の赤き 沾徳
 早もくそとけの粉ひくむらさき 露沾
 あつらひの葉の赤き 惟然
 枯葉のいろやうらまの赤 枳風

辛柳坊宗比の庵とつらみく

あつらひの葉の赤き 一道
 枯葉のいろやうらまの赤 杉風
 牛のいろやうらまの赤 桃醉
 あつらひの葉の赤き 乃龍

續猿

草花ふもつてとてぬ鴨あり
 鴨の影のさげりのちり
 あくくもさくまの之はなりて
 田や背巾吹く牛のあ
 本花や川田の畔の落き
 うらや葉まこちり牛の角

利牛 支考 智月 凡介 惟然 壘生

夷講

えいけい縁那うりよ
 えいけい縁那うりよ
 鳥 付り

芭蕉 利合

のののののののののの

鹿を鹿あつてぬりのぬり
 追つて雪あつてぬりのぬり
 少ねちとてぬりぬりぬり
 入海や波のさくさくぬり
 ぬりぬりぬりぬりぬり
 ぬりぬりぬりぬりぬり
 ぬりぬりぬりぬりぬり

句空 葛栗 文章 闇指 芭蕉 佐木 利雪

うらや海ふもつてとてぬ鴨あり
 又とて遠や子結ひらぬりぬり
 つゆふとつゆふとつゆふと
 ぬりぬりぬりぬりぬり
 ぬりぬりぬりぬりぬり
 ぬりぬりぬりぬりぬり

車庸 岱水 杉風 拙候

喰りのや門裏あつてとてぬ鴨あり
 あくくもさくまの之はなりて
 何れもさくまの之はなりて
 ぬりぬりぬりぬりぬり

埋火

里圃 文章 小春 文考

埋火や雪あつてとてぬ鴨あり
 桃先
 雪

芭蕉 桃先 洞木

初まや門裏あつてとてぬ鴨あり
 其角

言もあはれ心のかゝるをこそし
野鶴家ハもくもくもくもく
まじり色もくもくもくもく
ふく川もくもくもくもく
丘もくもくもくもくもく
もくもくもくもくもくもく
野刺もくもくもくもくもく
浮かちわくもくもくもくもく

邦楽

お邦おふまむおめおめおめ

浄くもくもく

今時色くもくもくもくもく
浄くもくもくもくもくもく
ぬ又の門もくもくもくもく
振と送くもくもくもくもく

煤掃附晦つき

煤もくもくもくもくもくもく
煤はもくもくもくもくもくもく

夕菊 祐甫 葛柴 文考 圃吟 文章 陽和 配力 史邦

路草 馬寛 許六 沾圃 残香 黄逸

少是丸煉のかゝや煤と存
煤もくもくもくもくもくもく
煤掃やおおまてぬもくもく
晦くもくもくもくもくもく
解法おやあつりもくもくもく
りら煤のもくもくもくもく

歳暮附節李候 夜配

らひくもくもくもくもくもく
門かやまむもくもくもくもく
臺もくもくもくもくもくもく
積とよふのわくもくもくもく
大幸や奴子たもくもくもく
袴もくもくもくもくもくもく
年の市浄もくもくもくもく
おもくもくもくもくもくもく
川結もくもくもくもくもく
項の痛もくもくもくもくもく
天船もくもくもくもくもく

馬寛 閨如 惟然 岱水 嵐蘭 馬佛

曾良 里東 草士 車采 万乎 李由 其角 正秀 萩子 稜 惟然

○續棟

漢の秋よまると結をてとりの事

はりの圖司呂丸の羽くろりる事
のりくとして浮勢ももさくしてたりん
そはくくの事かろくくしんひして
今いあまさんくしんひして

管人ふあやぐおもあり年の事 芭蕉
今にふあまてとんすのあまの年忘 支考
所ふあまのあまの年の中 土芳
管の事りや弱くしてゆか殺の甲 尚白
管の事りや弱くしてゆか殺の甲 桃後
裁層いまのふりむ川名 船 山蜂
一志まうりて静くく海板の鶴 利合

雑冬

少屋風ふまをく挽くくをくくく
桂布ふは風をくくくくく 土芳
井のありのくくくくくくく 李下
まきまや山伏村のまきくくく 仙杖
まきまくくくくくくくくく 圃仙

巨魁よりまき少り時をあまか 雪芝
山陰や横の尻振くくくく 口谷
想極く人春の振のまきくく 沾圃
兼川やまきくくくくくく 杉風

釈教之部 附追善哀傷

涅槃

涅槃像あつと表具も目やと及 沾圃
新とん金や新とん金 芭蕉
山寺や猫ちくくくくく 不撤
貧福のまきくくくく 山蜂

灌佛

灌佛やくくくくく井のあま 曲翠
ちくくくく佛くまれて二三日 不玉
灌佛や釈迦と持慶の位并とし 之道

鬼祭

冷あんまれあまきくく 嵐雪
床あまのくくくくくく 去来

續核

甲戌の夏大津ふゆりどろり

かきうり浦息せきりきり四里ふ

帰るそと暮春をいそむ

あつとれ杖よりあらぬの暮糸 芭蕉

悼少年二句

うれしきや麻糸の筈もかきぬあし 惟然

その杖をとりぬきそよみ秋の風 支考

徳念の籠に寺あけく

首のたぐりゆきあけのきりきり 木節

とろろや移すやとる 榊のあ 支梁

内新條

袖もゆきととろりあけく 山新條 沾圃

臘八

晴ととろりてえれハ細雪計 許六

何のあれくは何きくハ大作海 如行

雑題

洛東のま如きしりてそまも菜

定帳の時

深くくはゆふとる 念佛が 去来

あるとれとて二とるまはくはくはく 智月

くく細やあまはくはくはく 佛を世 乙州

ゆふふ川紙同くはくはく 宿 重翠

もまはくはく湖のるはくはく 念佛 野坡

念をふはくはくはくはく 念佛 支考

旅之部

送別

乙辰七年のまはくはくはくはくはくはくはく

まはくはくはくはくはくはくはくはく 荷兮

あまや柿くはくはくはくはくはくはく 惟然

許六うあまはくはくはくはくはくはくはく

猿人のんあまはくはくはくはくはくはく 芭蕉

留別

洛の惟はくはくはくはくはくはくはくはく

氣ととあまはくはくはくはくはくはくはく 丈草

續猿

鎮のふのち〜長送るふか 芭蕉

甲斐のふのふ〜清なる村

乙羽の山をふか〜

多よつて牛ふの〜草の路 木節

船もや浪世と〜 龍兼山 越人

少〜つ〜川 橋や碓の者 野徑

出羽の山をふか〜

のち〜

と〜い〜お取石 公羽

十高〜わ〜秋の地 許六

大木の橋向〜おさ〜 全

〜の路

〜〜〜おさ〜 曾良

〜〜〜おさ〜 猿 雖

〜〜〜おさ〜 我 峯

〜〜〜おさ〜 史 邦

回國の〜おさ〜

又ま〜おさ〜 呂 丸

我番園〜〜碓のき〜 沾圃

常陸の園〜〜おさ〜

り〜〜おさ〜

お〜〜おさ〜

これ〜お別村の碓のり〜

ま〜

縁も〜碓や梅ふ〜 支 考

を〜碓や〜おさ〜 全

〜縁〜年の〜おさ〜

〜〜碓〜おさ〜

驛場〜おさ〜

岩〜〜おさ〜 芭 蕉

聖
子
復
院

